

議 事 録

件 名	第 4 回 登別市水道ビジョン検討委員会	
日 時	平成 26 年 12 月 18 日 (木)	自 17 : 30 ~ 至 19 : 20

検 討 委 員 会 内 容

1. 開会

- ・第 4 回 登別市水道ビジョン検討委員会を開会。

2. 議題

【第 3 回登別市検討委員会の議事録】

- ・事務局より第 3 回登別市検討委員会の議事録について説明し、内容に対して各委員の了承を得た。

【テーマ-1 基本理念と理想像の文言に対する意見】

- ・基本理念の文言について、各委員より意見を求めた。

(委員)

- ・「市民」という言葉は、上から目線であり、印象が良くない。
- ・登別市の独自性がなく、どこの事業体でも使用できる基本理念という印象である。

(委員長)

- ・「市民」という言葉を「地域」に変更することや、「市民」という言葉を省くことなどが考えられるのではないか。

(委員)

- ・基本理念に登別市の地域性がないため、インパクトに欠ける。

(委員)

- ・必ずしも市民に限定した理念でなくてもよいのではないか。

(事務局)

- ・各委員からの意見を参考に、再度基本理念を精査し、後日各委員に連絡する。

【テーマ 2 3 区分の施策（持続、安全、強靱）に対する意見】

- ・各委員に、重要と考えられる実現方策及びこれらに対する意見について、3 区分の施策（持続、安全、強靱）毎に伺った。

< 持続 >

(委員)

- ・広域化への取り組みの検討は重要であると考え。将来に向けて他の市町村との広域水道事業の検討は避けられない。
- ・ダウンサイジングを考慮した施設再構築計画の策定と実施は重要であると考え。計画なくして、先には進めない。
- ・住民との連携強化は重要であると考え。連合町内会との定期的な意見交換、年に 1 回程度のアンケート調査、市民見学会の実施等は、住民サービスとして当然やるべきである。
- ・登別市水道事業の現状に応じた適切な官民連携の形態の検討実施は、力を入れるべき方策と考える。水道事業を民間で実施できるのか。海外では考えられるかもしれないが。
- ・水道料金の最適化に関する検討は、力を入れるべき方策と考えられる。段階的に料金を上げていくのか否か。
- ・国、道、近隣水道事業者との連携体制の構築は力を入れるべき方策と考える。国が積極的に取り組まなければ市町村単位では難しいのではないか。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員)

- ・最も重要と考える目標は経営状況の改善である。水道料金を大幅に上げないことが望ましい。
- ・次に重要と考える目標は民間活用の検討である。民間をうまく活用することで経費を節約すべきである。
- ・その次に重要と考える方策は近隣水道事業体等との施設の共同化、施設の共同整備等の検討の拡充である。

(委員)

- ・目標や方策については全て必要なものであると考える。
- ・アセットマネジメントの導入・実践は重要であると考え
- ・特に、職員の若返り、技術継承、人材育成に力をいれるべきではないか。
- ・近隣市町村との連携は必要であると考え。登別市単独では難しいと考える。
- ・民間活用の検討は必要であると考え。官と民で考え方が違うため、民間のノウハウ等をうまく取り入れるべきではないか。
- ・水道施設の再構築は必須である。
- ・「再生エネルギー」がどういうものを意味するのかわからない。
- ・水道サービスの向上に向けた情報収集は、国や道にはあまり期待できないため、住民との連携の強化が重要である。

(委員)

- ・アセットマネジメントの導入・実践は重要であると考え。
- ・水道料金の値上げについては、水道行政側が値上幅を最大限に抑えること、市民が水道料金値上げの必要性を理解することが重要である。
- ・「再生エネルギー」がどういうものを意味するのかわからない。

(委員)

- ・アセットマネジメントの導入・実践は重要であると考え。健全な事業を構築するためには必須であると考えられる。
- ・水道施設の再構築は重要であると考え。ダウンサイジングなどを考慮することが重要である。
- ・広域化の取り組みの検討は重要であると考え。
- ・民間活用の検討は重要であると考え。
- ・「再生エネルギー」がどういうものを意味するのかわからない。

(事務局)

- ・再生エネルギーの活用は、これから導入の可否等を検討していく予定である。
- ・再生エネルギーとは水の位置エネルギーを利用した「小水力発電」、太陽光のエネルギーを利用した「太陽光発電」等が挙げられる。

(委員)

- ・「水の付加価値」を住民に理解してもらう必要がある。
- ・水道料金の適正化は重要であると考え。水道料金が高いと考えている住民が多くいる理由として、2ヶ月に1回の徴収であること、下水道と一括して料金を徴収することが考えられる。
- ・住民との連携の強化は重要であると考え。
- ・登別温泉水を温泉へ足を運べない家庭へ運搬するなど、水道以外のサービスを行うことも考える必要がある。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員長)

- ・各委員の意見を取りまとめると、以下に示す方策が重要と考える。
 - 1) アセットマネジメントの導入・実践
 - 2) ダウンサイジングを考慮した施設再構築計画の策定と実施
 - 3) 登別市水道事業の現状に応じた適切な官民連携の形態の検討実施、広域化の検討を行う場合の設定及びそうした場への参加、近隣水道事業体等とのソフトな連携の検討に着手
 - 4) 住民との連携の強化

<安全>

(委員)

- ・水安全計画の策定と実践は重要である。必須であると考ええる。
- ・水安全計画の公表は重要である。当然必要である。
- ・指定給水装置工事業者に対する指導の実施は力を入れるべき方策であると考ええる。現状はやっていないのか。あるいは業者団体が自主的に行っているのか。
- ・水質検査の公表は力を入れるべき方策であると考ええる。やろうと思えばいつでもできるのではないか。

(委員)

- ・水安全計画の策定と実践は重要であると考ええる。
- ・水道未利用者への広報のあり方と水道利用の促進方法を検討することは重要であると考ええる。若者が水道水を飲まない傾向にある。安全性のPRが必要ではないか。
- ・蛇口から出てくる水の水質は公表しているのか。

(事務局)

- ・蛇口の水は、毎月6か所で水質検査を行っている。ホームページ上で毎月公表を行っている。また、広報では、年1回公表している。

(委員)

- ・水源保全の取り組みが重要であると考えられる。
- ・水質検査について、ホームページと広報で公表しているとのことだが、市民が必ず目をとおしている訳ではない。特にホームページは利用者が限定される。対面方式で情報を伝達することが望ましいと考える。

(委員)

- ・適切な水質検査の実施は重要であると考ええる。
- ・水安全計画の策定と実践は重要であると考ええる。
- ・水質検査の公表は重要である。広報は隔々まで読まない人が多い。登別市の水道水はおいしくないという声もあるため、もっと安全性をアピールする必要がある。

(委員)

- ・水源保全の取り組みの実施及び水安全計画の策定と実践は重要であると考ええる。
- ・水道未利用者への広報のあり方と水道利用の促進方法を検討することは重要であると考ええる。
- ・水安全計画の公表は重要であると考ええる。
- ・「チャレンジセーフティー」という言葉がある。水道水は当然安全であるが、さらに質の向上を、目指すという姿勢は重要である。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員)

- ・幌別浄水場は住宅に囲まれている。テロ対策等の危機管理対策が重要である。
- ・水源の保全への取り組みが重要である。環境は悪化しているため、将来を見据えた取り組みが必要である。函館市では、水源地に保安林を植樹し、水道で管理をしている例がある。

(委員長)

- ・各委員の意見を取りまとめると、以下に示す方策が重要と考える。
 - 1) 水安全計画の策定・実践、水質検査結果の評価及び必要な対策の検討と実施
 - 2) 水源保全の取り組みの推進
 - 3) 安全に関する情報公開

<強靱>

(委員)

- ・水道施設耐震化計画の策定は重要であると考え。不可欠である。
- ・危機管理対策マニュアルの充実が重要であると考え。東日本大震災時の例を見ても指揮命令系統の明確化は必要である。
- ・他の水道事業者等との共同防災訓練の実施は力を入れるべき方策であると考え。特に室蘭市とやるべきではないか。
- ・重要給水施設配水管の耐震化は力を入れるべき方策であると考え。財政が許せば、お金をかけたところである。国が消極的なら難しい。
- ・危機管理対策マニュアルに基づく防災訓練の実施、地域住民との共同防災訓練の実施は、力を入れるべき方策であると考え。

(委員)

- ・水道施設耐震化計画の策定は重要であると考え。地域、場所、土質により影響が異なるため、登別市にあった耐震化計画の策定が必要である。
- ・重要給水施設配水管の耐震化は重要である。液状化の被害を踏まえた対策が必要である。
- ・危機管理対策マニュアルについては、市民への周知が重要である。

(委員)

- ・水道施設は、地震のみではなくあらゆる災害に対して強い施設であるべきである。
- ・現状の災害時の給水施設は不十分であると考えられる。充実させることが望ましい。
- ・訓練の実施は、どこまで想定して行うのが重要である。

(委員)

- ・水道施設耐震化計画の策定は重要であると考え。
- ・他の水道事業者等との共同防災訓練の実施は力を入れるべきであると考え。
- ・重要給水施設配水管の耐震化は力を入れるべきであると考え。病院や応急給水拠点等に給水する管路を優先的に耐震化すべきではないか。

(委員)

- ・水道施設耐震化計画の策定は重要であると考え。必須である。
- ・重要給水施設配水管の耐震化は重要である。限られた財源の中でどこを優先的に整備していくかが重要である。
- ・危機管理対策マニュアルは、市の防災計画との整合性を図ることが重要である。また、応急給水拠点や資材確保の経路等を明確化する必要がある。

(次頁に続く)

検 討 委 員 会 内 容

(委員)

- ・水道施設耐震化計画の策定は重要であるとする。
- ・重要給水施設配水管の耐震化は重要であるとする。耐震管の選定を明確化することが重要である。

(委員長)

- ・各委員の意見を取りまとめると、以下に示す方策が重要と考える。
 - 1) 水道施設耐震化計画の策定
 - 2) 応急給水拠点の整備、応急給水栓の設置
 - 3) 危機管理対策マニュアルの充実、資機材等の流通経路に関する調査の実施

【テーマ-3 その他、第4回委員会までの資料や施策に対する意見】

- ・その他、これまでの委員会資料や施策に対して、意見を伺った。

(委員)

- ・水道料金の値上げは仕方がないが、資金の積立等を行い、水道料金の値上げを繰り返し行うことが無いように経営を行っていく必要がある。
- ・別の財源の確保について検討する必要がある。
- ・上記についての努力をもっと市民にアピールすべきである。

(委員)

- ・水道だけではなく、市全体で人口や水使用量減少に対する施策を行っていく必要がある。

(委員)

- ・地下水に対して、料金を徴収し、新しい財源とすることが考えられる。

(委員長)

- ・登別市水道ビジョンに、各委員からの意見や要望を取りまとめたものをつけるべきではないか。

(事務局)

- ・意見書あるいは要望書という形で、各委員からの考えをとりまとめて、ビジョンに添付する考えである。これについては第6回委員会の議題とする予定である。

3. その他

(都市整備部長)

- ・貴重な意見に感謝する。これらの意見を考慮し、登別市水道ビジョンに反映させる。
- ・今後、詳細な施設整備計画を策定予定である。これを実施していくことが可能な資金運用等を、水道料金改定を含めて検討していく。

(事務局)

- ・次回の委員会日程は未定である。来年1月中に次回委員会の日程を連絡する。
- ・現時点では、来年3月の広報でパブリックコメント募集の記事を掲載する予定である。

4. 閉会

- ・第4回 登別市水道ビジョン検討委員会を閉会。

－以上－